

第3号議案（2022年度理事会決議報告）

（イ） 2023年度 事業計画及び収支予算について

I. 2023年度事業計画

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

定款第5条の事業目的達成のために努力すると共に下記の事業の推進に努める。

1. 開催事業

イ. エランドール賞の開催（顕彰事業）

伝統と格式を誇る、当会の大事業の一つであるが、三年ぶりに開催された式典の成果を踏まえ、適切な規模・態様（会員以外の一般客の入場の可否、映像放送の可否など）の開催を目指す。

ロ. 国際ドラマフェスティバルへの参加・協力（支援事業）

受賞作品の一時作品の選考や、フェスティバルの運営をサポートしてドラマの国際競争力向上に努める。

ハ. プロデューサーズ・カフェの実施（研究調査及び育成事業）

芸術文化活動面で、顕著な活躍をしたヒットメーカーや各賞の受賞者、有識者を招き、シンポジウムや本会会員との意見交換の場としてのミーティングを行う

ニ. アクターズ・セミナーの実施（育成事業）

俳優発掘の為のセミナー。

コロナ禍の3年は開催不能だったが、本年は適正規模での開催を行う。

各社、各局の監督・演出家が、応募した新人俳優に対し、具体的な指導を行うとともに有望な俳優の発掘を目指す。

2. 組織強化活動

イ. 正会員数の漸減傾向（会員の逝去や功労会員の増加の一方、新入会員数は横這い状況）に歯止めをかける為、ネットメディアや在京メディアから全国各地のメディアからの会員加入の拡大を図る

ロ. 若手・中堅会員の参加意識を高める為、デジタル編集委員会（新設）による会員交流サイトを立ち上げる。

3. デジタル編集委員会の発足

周年記念事業企画の中から、選ばれた事業がデジタル交流サイトによる、フォーラムの立ち上げである。実施は、新たに発足するデジタル編集委員会が行う。協会の若手・中堅会員の参加意識を高める目的があり、本会会員限定のサイトで、クリエイター相互の意見交換や新作の紹介、編集委員会による、映像関係者（キャスト・スタッフ）へのインタビュー取材などの情報提供など、このサイトの有用性を高め新たな会員の増加にも繋げる。

4. 映像関係団体との連携

- イ. 現場（映画・テレビ業界）の作業環境の改善とハラスメント防止対策を関連団体と連携し、前進させる。

5. 支援活動

- イ. 全国フィルムコミッションの活動を支援し映像文化の発展に努める。
- ロ. 日本アカデミー賞、毎日映画コンクールなど、各種映像関連事業に委員を派遣し、積極的な支援を行う。

6. 記録保存活動

- イ. 協会事業のエランドール賞の動画による記録を保存

7. 親睦交流活動

- イ. 会員の事業への参加と交流の促進（ポスト・コロナへの対応）
- ロ. 会員交流サイトへのアクセスの促進

8. 総務関連

- イ. 協会創立70年（2024年）に向けて、さらなる発展の為にDX化への対応など事業の見直しを行う。

※コロナ感染対応は新たな局面に入ったが、今後とも事態の推移に適切に対応して行く。